会議記録

附属機関の名称	熊谷市自治基本条例審議会
開催日時	令和５年１月３１日（火）　１０時００分から１２時１０分まで
開催場所	熊谷市役所本庁舎　３０３会議室
出席者	【委員】計７名 濵畑芳和会長、依田悦代副会長、出浦尚明委員、上村悦子委員、 加藤英明委員、渡辺和敏委員、芹澤正雄委員 【事務局】総合政策部、企画課職員　計５名 荻野部長、長谷川課長、服部副課長、蟻川主査、水野主査 計１２名
傍聴人	０人
問い合わせ先 （所管課）	総合政策部企画課（市役所本庁舎３階） 電話　０４８－５２４－１１１１（内線２１５）
内容	**１　開会（企画課長）** 熊谷市附属機関の会議の公開に関する要綱に基づき、会議の概要を公開することの承認 **２　委嘱状の交付（市長）** 出席委員７名（公募委員３名含む）に委嘱状を交付した。 **３　挨拶** **小林市長** 平成１９年１０月に施行された熊谷市自治基本条例は、市民主体のまちづくりを推進するために制定し、この審議会にて毎年推進状況を御審議いただいている。本条例の検討段階から参画されている委員の方々、新たに参画いただいた方々も、これまでの御経験を市政運営に生かしていただけることを心強く思っている。今後も市民主体のまちづくりを推進するため、引き続き御協力をお願いしたい。 **４　委員の紹介** **５　会長・副会長の選出** **濵畑会長** 委員の皆さんから忌憚のない御意見をいただき、自治基本条例の趣旨がどのように守られて、現在の熊谷市政にどう生かされているのかなど、活発な意見交換が行えればと考えている。御協力をお願いしたい。

	依田副会長 子供たちの未来を考えながら、このまちが良くなるようなネットワークづくりに努めてきた。若者が様々な活動に参画できるようなまちづくりに寄与したい。 **6　議事** 審議会条例第６条第１項の規定に基づき、濵畑会長が議長となり進行 （1）自治基本条例の推進状況について ・事務局から会議資料にしたがって説明 ①会議資料における情報の追加について ・市民団体の活動状況に併せて、団体の平均年齢や代表者の年代などが分かると良い。年代把握をすることによって、団体による活動の方向性が客観的に見えるものと思う。 ・子育てをしている方の意見はどのように自治基本条例に反映されているのかの資料があると良い。 ②会議資料から読み取る疑問について ・年々自治会の加入率が低下している中で、市としても対策が必要であると考える。 →課題であることは認識している。所管部署において、自治会長と課題解決に向けて検討中である。 ・昨年度市長が交代となり、ハートフル・ミーティングが中止となったが、他にも中止となったものがあるのか。 →毎年行政評価を実施し、効果検証に基づき事業の継続・廃止を決定している。 ・令和３年度の市税の納税率が向上したが、どのように分析しているのか。 →令和３年度から納税アドバイザーを起用したことによる。 ・令和２年度から令和３年度にかけて自主財源比率の歳入が減少しているがなぜか。 →令和２年度は、経済対策として新型コロナウイルス感染症に係る臨時交付金が入ったことにより歳入が多かったためである。 ・自治基本条例審議会条例で、委員の定員は 10 名以下としているところ、現在８名となっている。公募委員を増やして 10 名にしてはどうか。 →女性登用の観点も踏まえ、委員構成について預かりとする。 ③女性委員の登用について ・子育て関係の若者の意見もあった方が良いと考えるため、そうした団体の参画があると良い。 ④協働について ・地域の高齢化が進む中、情報共有が大事であると思う。困った人が情

	報を取りに行くというだけでなく、どのように情報を伝え、どのように協力できるのかを検討して欲しい。 ⑤市民活動支援センターの運営について ・近年の新型コロナ状況を踏まえても、センターの利用団体数が増えていることは素晴らしいと思う。一方で、活動の中心となる施設については、施設そのものを管理すればよいのではなく、そこで活動を行う団体への運営管理者のサポート力が求められると考える。今後、統合などに伴い新しい施設ができると聞いている。ぜひサポート力を重視していいただきたい。 ⑥自治会と市民活動のサポートについて ・自治会については毎回懸案事項として話題に出ることから、本腰据えて対策を講じて欲しい。 ・市民活動支援センターにおける活動団体が増えている背景には、指定管理団体のサポートがある。このように、新しい施設ができた際も活動団体をサポートできる地元団体の醸成が大切であると思う。 ⑦地域の実態把握について ・自治会が解散するなどある中、一生懸命やってくれる自治会もある。一方、核家族の増加により一人暮らしとなっている高齢者もいる。こうした地域の実態把握を行うことで、どの地域にどのような施策を打てば良いのかが見えてくると思う。 （２）第２次熊谷市総合振興計画後期基本計画について ・事務局から事前配布の会議資料にしたがって説明 ①デジタル地域通貨の導入について ・資料に記載があるが、検討状況について伺いたい。 →地域通貨と合わせてコミュニティポイントの付与についても検討しているところ。また、データも取りながら様々な施策に活用できないかということも含めて検討中である。 ②スポーツと文化について ・スポーツと文化を複合的に行うと、たくさんの人が集まる。そういう繋がりのある施策を念頭に、ぜひ熊谷のまちづくりをお願いしたい。 ③スポーツと文化と観光の魅力発信について ・ラグビー場と道の駅について、にぎわいが生まれることに期待している。野菜などＰＲ要素を盛り込み、面として、複合施設として栄えることに期待する。そのためにはＰＲ、情報発信が重要となる。そういうところを巧みに企画していいただき、ワクワク感があるような、子どもの笑い声が聞こえるような地域にしていただきたい。 ④年配者向けスマホの使い方事業について ・スマホの使い方については、業者に頼るだけでなく、市も積極的に関

	与していいただきたい。 →公民館等で民間事業者が使い方教室を開催しているが、デジタル化の普及とともにデジタルに疎遠な人の対応も考えながら課題を解決していきたい。 （3）その他 特になし。 **6　閉会（企画課長）**

※　この会議記録は、熊谷市附属機関の会議の公開に関する要綱第１０条に規定する様式第２号により、作成しています。